

令和 5 年度 入学 試験 問題

地 理 歴 史

100 点満点

《配点は、一般選抜学生募集要項に記載のとおり。》

地 理 B (1～12 ページ) 世界史 B (13～26 ページ)
日 本 史 B (27～41 ページ)

(注 意)

1. 問題冊子および解答冊子は監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は表紙のほかに 41 ページある。
3. 問題は地理 B 5 題, 世界史 B 4 題, 日本史 B 4 題である。
4. 試験開始後, 選択した科目の解答冊子の表紙所定欄に学部名・受験番号・氏名をはっきり記入すること。表紙には, これら以外のことを書いてはならない。
5. 総合人間学部「文系」・文学部・教育学部「文系」・法学部「前期日程」・経済学部「文系」受験者は, 地理 B・世界史 B・日本史 Bのうちから 1 科目選択すること。
6. 解答は, すべて解答冊子の指定された箇所に記入すること。
7. 解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがある。
8. 解答冊子は, どのページも切り離してはならない。
9. 問題冊子は持ち帰ってもよいが, 選択した科目の解答冊子は持ち帰ってはならない。

日本史 B

(4 問題 100 点)

I 日本史 B 問題

(20 点)

次の史料(A～C)を読み、問(1)～(19)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。なお、史料の表記は便宜上、改めたところがある。

A

(万寿5年(1028)7月15日)上総介^{ためまさ}為政、妻子を近日上道せしむべき由を申す。しかるに件の事により、国人いよいよ国司の事を聞かざるか。国司は の掌握にあり、生死は彼の心に任さる。^(a) 濫吹^(注)の事、日をおって断えず。 の従者、館の内に入り乱れ、国司の従類^(b)を打ち縛るの由、^{うまやのとねり}厩舎人友成の申すところなり。

(長元4年(1031)7月1日)夜に入り頭^{とうのべん}弁来たりて云わく、「今夕、頼信朝臣^(c)来向す。宣旨の趣を仰すに、申して云わく、『しきりに朝恩を蒙り、四か国に任ぜられ、殊に宣旨をうけたまわり、 を追討す。戦場に赴かんとするの間、不慮のほかに 帰降^(注)す。ひとえに朝威の致すところにして、頼信の殊功にあらず。しかるに、たちまち褒賞の^(d)綸言^(注)をうけたまわり、驚恐の寸心を抑えがたし。ただ衰老、日に積もり、遠任に赴きがたし。もし朝恩あらば、丹波に任ぜられんことを欲す』』といえり。まず に申して奏聞すべき由、示し含めおわんぬ。^(e)

(『小右記』)

(注) 「上道」は、平安京に上ること。

「濫吹」は、乱暴なふるまいのこと。

「宣旨」「綸言」は、ともに天皇の言葉のこと。当時の天皇は後一条天皇で、すでに成人していた。

「帰降」は、降伏すること。

問

- (1) 下線部(a)からは、受領が家族を連れて任国に赴いていたことがわかる。菅原孝標も同じようにして上総国に赴任したが、彼の家族はその経験を書物に記した。その書物の名を記せ。
- (2) に当てはまる人物は誰か。姓名を記せ。
- (3) 下線部(b)の「従類」とは、従者のことである。受領が平安京から引き連れていき、任国支配に用いた「従類」を、ふつう何と呼ぶか。
- (4) 下線部(c)の「頼信朝臣」について、この人物の孫は陸奥守として地方豪族の内乱を鎮圧した。その戦いを何と呼ぶか。
- (5) 下線部(d)について、文脈上、この宣旨の趣(内容・趣旨)を示すものとして最も適切な2文字の語句を、史料の文中から選んで記せ。
- (6) 下線部(e)について、丹波を希望する理由は何か。文脈に即して、簡潔に記せ。
- (7) には、このときの藤原頼通の地位を表す語句が入る。その地位を漢字2字で答えよ。

B

朔日。^{ついたち}(中略)夜前、^{たいれい}台嶺より下向するところの^{だいしゆ}大衆ら、^{みこし}日吉の^か神興を^(注)昇き、^(f)西坂下^{にしきかもと}に発向し、^{じにん}神人・^{しゆと}衆徒数千人、^{むせ}群衆す。ここにまた、^{ふせ}相禦が^かため、公家、指し遣わすところの ウ ならびに源氏・平氏、天下の弓兵の士、武勇の輩数万人、^{まつがさき}法成寺の東の河原より松前の^{まつかさき}辺りに及び、陣を引きて党を結び、^(g)相守りて入れず。^{げんこう}玄甲道に^(注)連なり、白刃日を映し、数十町の間、人馬相満つ、と云々。^{うんぬん}相互いに進まず、今日すでに^く暮る。^{はる}遙かに山上を望むに、火を採りて往反す。その光、星のごとし。京中騒動す。(中略)誠にこれ、^ふ仏法・^わ王法、恐るべき慎むべきの時か。(中略)

二日。(中略)院において、人々相定めらる。^(h)請うに^(注)依るべきの由、ウ ^(注)資清をもつて仰せ下さる。ここに徒衆、大いに^え歡喜し、^あ咲みを含みて^{おわ}帰山し了んぬ。また、武勇の士、おのおの^(注)帰り了んぬ。くだんの事、^(注)裁許あるべくば、前日に仰せ下さるべきか。この十余日、いまだ定まらざるの間、数千の軍兵、相禦ぐの間、東山・河原・賀茂・吉田の辺り、下人の田畠、兵士らのため滅亡せられ了んぬるの後、ついに申請に随い、裁許あり。(中略)およそ末代の法、⁽ⁱ⁾衆徒の所為、人力及ぶべからざるなり。いよいよ末世に及ばば、定めて朝家を滅亡するか。恐るべし慎むべし。

〔中右記〕嘉承3年(1108)4月条)

(注) 「昇く」は、かつぐこと。

「玄甲」は、^{よろい}鉄製の鎧のこと。

「請うに依る」は、申請のとおりにすること。

「徒衆」は、衆徒のこと。

「裁許」は、可否を判断すること。

問

- (8) 下線部(f)の「台嶺」が指す寺院の名を記せ。
- (9)

ウ

 には、9世紀に嵯峨天皇が設置し、京中の治安維持にあたった役職の名称が入る。漢字4字で記せ。
- (10) 下線部(g)の「法成寺」を建立した人物の名を記せ。
- (11) 下線部(h)について、
- (あ) この決定を主導した権力者は、堀河天皇の父にあたる。その人物の名を記せ。
 - (い) 院の家政機関から発給された公文書の名称を、漢字4字で記せ。
- (12) 下線部(i)について、この史料に記されるような「衆徒」による行動を何と叫ぶか。

C

將軍様京御着、^{いよいよ}愈 来月三日の由に候処、^(j)にわかに江戸表攘夷始り候に付き、^(k)將軍様途中より御引き歸しに相成り候様相見え候こと、御在京の諸大名⁽¹⁾追々御下向、誠に慶長・元和の乱以来の混雑と相見え、下民共^{まこと}真に薄氷を踏むの思いをなし、危うき時節に相成り候こと。

^(m)御所辺と思しき処、鉄砲大筒の音厳しく聞え、^{いく}すわこそ軍さ始りしと思う内、刻限は辰の刻、河原町三条長州屋敷に火の手上り候に付き、上辺の町人男^(注)女、^(注)雑具つづら持ち運び、上を下へとかえし大混雑に相成り、(後略)

此の節世上大いに騒がしく、⁽ⁿ⁾長州殿上京に付き、御上は大混雑の趣に相見え、公方様始め エ 殿・桑名殿・松山殿、^(o)此の夜大坂へ御下り成され候こと。

(出典：京都近郊農村の庄屋が幕末期に記した『若山要助日記』の一部を抜粋し、並べたものである。)

(注) 「上辺の町人」は、^{かみぎょう}上京あたりの町人、の意味と思われる。

「つづら」は、衣類等を入れる蓋つきの箱のこと。

問

- (13) 下線部(j)のような状況はこれ以前から生じており、江戸の内外で外国人や公使館の襲撃が続いていた。生麦事件もその1つであるが、この事件で殺傷されたのはどこの国の人か。国名を答えよ。
- (14) 下線部(k)のように記述されているが、「将軍様」は翌月4日に上洛し、二条城に入った。将軍の上洛は約230年ぶりの出来事であった。約230年前に上洛した将軍は誰か。
- (15) 下線部(l)の「諸大名」に関連して、幕府は長らく諸大名に課していたある義務を、文久の改革において大幅に緩和した。その義務とは何か。
- (16) 下線部(m)は、この前年に京都から長州藩士や急進派公家らが追放されたことを遠因として起こった。この下線部(m)の出来事を何というか。
- (17) 下線部(n)は長州藩主の上京を意味し、この翌年に実現する。これに関して、幕末政治で長州藩が重要な位置をしめる前提要因として、藩政改革の成功があげられる。その改革において、下関に入港した廻船に対して資金貸し付けなどをおこない利益を上げた、長州藩の役所は何か。
- (18)

エ

 には、「公方様」や「桑名殿」らとともに大坂城へ下った、京都において幕府の要職を務めた大名を示す地名(藩の名称)が入る。漢字2字で答えよ。
- (19) 下線部(o)のような事態に至ったのは、「公方様」への処分に対する反発が理由であった。その処分が決定された会議を何というか。

Ⅱ 日本史B問題

(20点)

次の文章(①～⑩)の ～ に入る最も適当な語句・数字を記せ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

- ① 7世紀には中国や朝鮮半島の影響を受けた仏教文化が花開いた。指先を頬にあて、片方の足をもう片方の膝にのせる造形から 像と呼ばれる仏像は、中国や朝鮮半島の弥勒信仰に関係すると考えられている。また、法隆寺金堂釈迦三尊像をつくった は渡来系氏族の出身である。
- ② のかわりとして納入された庸は、中央に送られて雇役民への支払いなどに使用された。また、春に貸し付けた稲を、秋に利息とともに返却させる の制度が、地方財政において重要な役割を果たした。
- ③ 平城京の北部中央に位置する平城宮には、天皇の生活の場である のほか、政治・儀礼の空間や各官司の施設がおかれた。官人たちが居住した平城京は、平城宮の正門から南にのびる 大路によって、左京と右京に分けられた。
- ④ 律令国家では、官人の養成を目的にして、儒教の経典を中心とする教育がおこなわれた。中央での教育を担う大学寮は、文官の人事を担当する 省のもとにおかれ、地方に設置された国学では、 の子弟を対象とした教育が実施された。
- ⑤ 鎌倉時代、皇位継承をめぐる天皇家が2つに分かれ、幕府の仲裁のもと交互に皇位についた。のちに後醍醐天皇を出した 統は、鳥羽上皇の皇女 から受け継がれてきた荘園群を経済基盤とした。
- ⑥ 15世紀前半、中山王の が三山を統一して琉球王国を建国した。琉球は、日本・朝鮮・中国・東南アジアの中継貿易の拠点となり、 は首都の外港として栄えた。

- ⑦ 幕府は長崎における貿易を維持するため鉱山の開発を進めた。17世紀半ば以降は の産出量が増え、主要な輸出品となったが、次第に枯渇していった。そこで、田沼意次はオランダ・ との貿易を維持するため鉱山開発を奨励し、大坂に座を設立して諸国で産出された を集荷した。
- ⑧ 江戸時代には、幕府御用絵師として二条城・大徳寺などの障壁画を制作した 派に学びながら独自の画風を確立した画家も多い。立体感のある写生画風を確立した もその1人で、代表作として『雪松図屏風』がある。
- ⑨ 18世紀後半の江戸の住人には、農村部から流入したものの定職・住居を持ってない人々も多かった。そこで幕府は、彼らを収容するため石川島に をつくった。また、各町に町入用の節約分の %を積み立てさせ、緊急時に貧民救済ができるようにした。
- ⑩ 18世紀以降、庶民が読み・書き・そろばんを学ぶ教育施設である が増加した。読書に親しむ庶民も増え、『南総里見八犬伝』を著した は、執筆料だけで生活ができる職業作家であったといわれている。

Ⅲ

日本史B問題

(30点)

次の文章(A～C)の ～ に入る最も適当な語句を記し、問(1)～(15)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A

食料の備蓄は人類の生存と社会の発展に重大な役割を果たしてきた。およそ1万年あまり前に 世が終わり、気候が温暖になると、日本列島の植生も様変わりし、人々は豊かな植物資源を採取して暮らしを営むようになった。特に重んじられたのが堅果類であり、^(a)加工用の石器類も数多く出土している。植物栽培もおこなわれていたようである。^(b)狩猟と漁労も盛んであった。

水稲耕作が九州北部に伝わり始めると、列島社会の生業に変革が生じた。^(c)水田を経営する必要上、集落が低地に営まれることが増え、そのため水害を被ることもあったが、食料の安定供給が可能になった。各地の集落跡において検出される高床倉庫は、稲穀の備蓄を物語る。この時期から頻発する戦争は、稲穀などの余剰物資をめぐる紛争などが生じたことの反映である。^(d)山頂や丘陵上に営まれた 集落は、一般に戦争に関わる集落と考えられている。他方、弥生文化と総称される稲作を中心とする文化は、列島の南端、北端にはおよばなかった。その結果、南西諸島では 文化と呼ばれる食料採取文化が継続した。

列島各地で大規模な墳墓が造営される古墳時代には、備蓄の格差が顕著になった。^(e)大規模な倉庫群が立ち並ぶ少数の遺跡が大王の膝下に存在した一方で、^(f)大多数の一般集落はささやかな倉庫を営むにとどまった。このような大規模倉庫群の運営が可能になった背景に、ヤマト政権の成長を考えるのが自然であるが、もちろん朝鮮半島から伝来した先進技術や統治技術の影響も忘れてはならない。文筆に優れ東漢氏の祖となったと史書が伝える などの渡来人が、重要な役割を果たしたのであろう。527年に勃発した磐井の乱を重大な契機として、各地にヤマト政権の直轄領である が設置され、生産物の政治的収取に拍車がかかったのである。

問

- (1) 下線部(a)に関して、堅果類の粉碎には、すり石と組み合わせてもう1種類の石器を用いることが多かった。この石器の名称を答えよ。
- (2) 下線部(b)に関して、石鏃の素材として用いられた、長野県和田峠や北海道白滝などを原産地とする石材を何というか。漢字3字で答えよ。
- (3) 下線部(c)に関して、湿田での田植えなどで足が沈まないために着用する履き物を何というか。漢字3字で答えよ。
- (4) 下線部(d)に関して、物見櫓と推定される大型建物跡が検出された佐賀県の遺跡名を答えよ。
- (5) 下線部(e)と(f)に関して、その代表的な遺跡の組み合わせとして最も適切なものを、以下の①～③から1つ選べ。

① (e) 群馬県三ツ寺 I 遺跡	(f) 奈良県纏向遺跡
② (e) 奈良県唐古・鍵遺跡	(f) 長野県平出遺跡
③ (e) 大阪府法円坂遺跡	(f) 群馬県黒井峯遺跡

B

15世紀末以降、長く続いた戦国争乱の時代は、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康による全国統一により終わりを迎えた。戦国争乱と統一戦争の過程で、軍事技術は飛躍的に発達し、戦闘は大規模化していった。

戦場の様相を大きく変化させた新兵器が鉄砲であった。鉄砲は、1542年あるいは翌年、カに漂着した中国人の船に乗船していたポルトガル人がもたらしたとされる。伝来後、鉄砲は新たな武器として急速に全国の戦国大名たちに普及し、製造技術も全国に広がった。和泉国の堺、紀伊国の根来、近江国のキなどがその主な生産地であった。

鉄砲を集中的に運用したことで有名なのは織田信長である。尾張国の武将であった信長は、1567年に斎藤氏を滅ぼして美濃国を手中におさめた後、「ク」の印文を持つ印判を使用して畿内進出を表明したとされる。翌年上洛し、足利義昭を將軍職につけた信長は、堺を屈服させるなど、畿内周辺を制圧し、鉄砲の生産地をおさえ、畿内の発達した経済力を利用して勢力を拡大していった。^(h)多くの鉄砲を運用するためには大量の弾薬が必要であり、鉄砲や弾薬を大量に調達できる経済力と技術を握ったものが、軍事的に優位に立つことができたのである。

鉄砲の普及は、築城技術の飛躍的な発達をうながし、また、攻城戦・野戦の光景を一変させた。⁽ⁱ⁾攻撃や防御の拠点として陣城などと呼ばれる要塞を短期間に多く構築し、土塁や堀を隔てて鉄砲を撃ち合うようになった。そのため、戦争には極めて多くの資金と人員が必要になった。織田政権や豊臣政権が実施した土地調査であるケは、戦争に資金・兵糧を用いるために年貢収入を^(j)確実にする目的があったともいえるだろう。また、豊臣政権が1592年に出したコ令は、朝鮮に出兵するための人員を確保する目的でなされた性格^(k)があったと考えられている。

問

- (6) 下線部(g)について、この船は、当時、東アジア海域で密貿易などの活動をおこなっていた集団の船であったといわれている。このような集団の活動を抑制することになった、豊臣秀吉が1588年に発令した法令は何か。
- (7) 下線部(h)に関連して、畿内の経済は江戸時代にも発展し続け、大坂は、米をはじめとした全国の流通の中心地となった。享保年間に公認された米市場があったのは大坂のどこか。地名で答えよ。
- (8) 下線部(i)について、17世紀初頭、播磨国に池田輝政が築いた、世界文化遺産にも指定されている城郭名を答えよ。
- (9) 下線部(j)について、その年の収穫量を調査してそれに応じて年貢率を定める年貢賦課方式を何というか。
- (10) 下線部(k)について、この出兵は、大きくわけて2度なされた。このうち、1度目の出兵による戦争を何というか。

C

西園寺公望(1849-1940)は、公家の家に生まれ、若き日の約10年間をフランスで過ごした。留学仲間には、サの『社会契約論』を翻訳したことで知られる中江兆民などがいる。帰国後の西園寺は、伊藤博文の知遇を得、憲法調査に同行し、ドイツ公使も経験した。さらに日清戦争後に文部大臣に就任した西園寺は、あたらしい教育勅語案を考え、女子教育の必要を説いた。また、帝国大学の新設も構想した。

(1) 伊藤の後にシの総裁となった西園寺は、以後2回にわたって首相をつとめ、また首相を退いた後にはスとなって、後継首相を天皇に推薦するなど、政界に影響力を及ぼし続けた。

西園寺は文学を愛しており、親交をもった国木田独歩^(m)の勧めによって、多くの文士らを招待することもあった。財界方面では、実弟の養子先である財閥⁽ⁿ⁾とのゆかりも深かった。西園寺は生涯、正妻をもたなかったが、複数の女性との間に複数の娘をもち、第一次世界大戦後のパリ講和会議に全権として出席した^(o)際にも、「妻女」^(p)らを賑々しく同行させ、耳目を集めた。

同じく公家の家柄のセが首相に選ばれ、2度目の組閣を命じられた4か月後、西園寺はその生涯を終えた^(p)。日比谷公園でおこなわれた国葬には、数万人が参列した。

問

- (1) 下線部(1)について、
- (あ) 1897年にこれが設置された都市名を答えよ。
 - (い) また、その帝国大学で教鞭^{きょうべん}を執り、『貧乏物語』などを著したマルクス主義経済学者の名を記せ。
- (2) 日露戦争後、下線部(Ⅱ)の人物らによって、人間社会の現実をありのままに映し出そうとする運動が文壇の主流となったが、それを何と呼んだか。
- (3) 下線部(Ⅲ)は、別子銅山の経営などで知られる。その財閥の名を答えよ。
- (4) 下線部(○)のような西園寺のふるまいは、黎明会において批判された。門下生による東大新人会の結成を導いたことでも知られる、黎明会の設立者の名を答えよ。
- (5) 下線部(◇)の結果、首相経験者などで構成される重臣会議で後継首相が決定されるようになった。その際に中心となった木戸幸一が当時就いていた役職は何か。

IV 日本史B問題

(30点)

次の問(1)、(2)について、それぞれ200字以内で解答せよ。解答はいずれも所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

- (1) 院政期から鎌倉時代にかけての宗教・文化の受容層の広がりについて、具体例をあげて述べよ。

- (2) 日本がドイツ・イタリアと結んでいた防共協定が、三国同盟へと至った経緯・背景について、防共協定と三国同盟の違いに留意して説明せよ。

日本史B問題は、このページで終わりである。

問題訂正（地理歴史（日本史B））

下記の問題訂正があります。

記

問題訂正

地理歴史 問題冊子

Ⅲ 日本史B問題 38ページ
問（8） 2行目

（誤）遺産にも指定されている

↓

（正）遺産にも登録されている

以上